

# 慈眼寺

## 整備だより

第十号

平成十七年三月

慈眼寺整備委員会  
委員長 大野悟

### 「あいさつ」

整備委員長 大野悟

四年間にわたりご指導ご鞭撻を賜り委員一同になりかわりまして、まずもって心より厚く御礼申し上げます。

慈眼寺整備委員会も設立以来、各建設会社に打診をしますと建設資金が四億円を超え心配をしております。そこに三河より尾張へ進出を願っている田辺建設の話聞き交渉の結果二億円を切る金額で尾張地区での見本とな

る本堂と客殿を契約し、最終的には立派な慈眼寺が完成いたしました。昨年十一月には落慶式、晋山式を盛大に大本山永平寺、総持寺御専史、本寺福蔵寺方丈様始め五十人にも及ぶ僧侶のご臨席を賜り開催することができました。これも偏に檀家の皆様、関係する業者の皆様のご理解とご協力の賜物と感謝いたします。記念のアルバムを作成いたしましたのでご受納ください。ここで皆様よりほ

ご寄進を頂いておりますので収支決算につきまして本号で最終的な会計報告をさせていただきます。さて、その残額につきまして、予てより曹洞宗宗務庁から、宗門の維持について護持会を設立するようとの勧奨を受けておりますので、その運用資金に充当いたしました。と考えておりますので、何卒ご了承頂きたいとお願いたしました。護持会の具体的なありようにつきましては、檀方総代、整備委員会、墓地管理委員会に住職を交え、檀家の皆様方の意見を反映する形で研究、協議しております。皆様のご

意見ご質問をお待ちしております。協議結果などにつきましてはまた改めて「護持会便り」という形で報告、提案させていたただこうと考えております。このように慈眼寺整備委員会は発展的に解消することになります。最後に改めて皆様方のご支援、ご協力に感謝いたします。本当にありがとうございます。ございました。



枝垂れ梅も花をつけました。

# 会計報告

会計 伊藤久幸  
 庶務 伊藤忍

平成十三年二月から始めました寄付勸進につきましては、地元の檀家については、地区ごとに係の委員が勸進に伺い、他所の方々には郵送にて寄付のお願いをいたしました。最初から積極的にご協力をいただきました。現状でありその後続々とご寄付の申出を頂きました。当初の予定の数の申し込みを頂き、皆様の慈眼寺整備に対する意気込みがひしひしと感じられました。そして毎月、月始めに役員が集まり入金を進捗をチェックしました。振込みの予定日より早め早めに入金していただき、また支払いを分割から一括に変更していただく方も多く係としては大変に助けられました。結果は下に示しました。殆どの方々からご協力を頂きまして、本当に有難いことだと思っております。

また、収支決算は下段の表にお知らせいたしましたがおもな収入源は寄付金と土地の売却代金で、これだけで本堂、客殿の

建設、外構・庭園の整備や式典の費用、引き出物など一切をまかないさらに一千万円近い金額を残すことさえ出来ました。ひとえに皆様方のご協力の賜物と、裏方を預かる者として感謝の念に堪えません。ありがとうございました。

寄付勸進状況	住所区分	戸数	申出戸数	金額(万円)
	寺裏	58	58	3878
	中	35	35	2970
	宮西	30	30	2745
	北	24	24	550
	南部	36	35	1320
	四ツ谷	44	43	2275
	他所*	152	140	6064.5
	総計	379	365	19802.5

\* 註 他所分には寺関係者 19 件を含みます。

慈眼寺整備事業収支計算書(会計報告) 平成17年3月		単位:円	
収入の部		支出の部	
寄付勸進収入	198,025,000	本堂建築費	119,306,726
祝儀等協力金	1,250,645	客殿建築費	53,269,074
稚児行列参加費	2,920,000	納骨堂改修費	14,895,799
土地売却代金	51,476,500	仏像仏具補修費	10,201,470
		造園、外構整備	27,636,636
		落慶・晋山式費	13,216,904
		記念品代等	6,838,942
		その他事務諸経費	21,680
計	253,672,145	計	245,387,231
差引総計		残額	8,284,914

以上につき監査の結果、間違いなく適正と認めます。 平成 17 年 3 月 3 日

監査委員 桜井尚印 監査委員 伊藤安彦 ○

## 整備事業の完成に思う

檀方総代 伊藤正

毎日寒い日が続いております。昨今地球温暖化現象が喧しく言われておりますが、この真冬については温暖化どころか実に身にこたえ長く感じられません。「冬来たりなば春遠からじ」と申しまして、この季節を越えますと楽しく明るい希望の季節がやってきます。今しばらく寒さに負けず、皆様ご健勝にお過ごしください。

平素はお寺のことに關しましてご協力ご援助を賜りまして恐縮至極に存じております。特に此の度の慈眼寺整備事業完成の式典に併せ晋山式につきましては大変お世話になりました。思えば去る平成十二年十月二十八日檀家総会において現任職様の

意見に従いまして、此の際は是非本堂始め境内整備がしたい旨ご説明申し上げましたところ即日ご承諾を頂き決議できました。お寺をきれいにすることが檀家の皆様方の長年の念願でありましたので何の異議もなくご賛同を願うことが出来ました。皆様のご賛同こそが願いを叶える原動力であり、この感激は言葉に表わすことは出来ませんでした。「慈眼寺整備だより 第一号」の紙面で申し上げました「お礼とお願ひ」の文面を、今ここで読み返して感じますことは、全ての事柄が一筋のレールの上を行くが如く順調に進めることが出来たということでした。特に最終の行事であります落慶・晋山式につきましては、私どもの生涯において余

程の幸運に恵まれなければ体験することが出来ない行事が、喜びと感動のうちに実に盛大に挙行することが出来ました。これも偏にご住職様は勿論役員ならびに檀家の皆様方のご寄進、ご賛助、ご協力のお蔭であります。そのうえ、何よりも喜ばしいことは、この輝かしく美しい大殿堂を後世に伝えることが出来ることでもあります。

最後になりましたが長期間にわたりまして勸進に始まり様々のご賛助ご協力を賜りました檀家の皆様方にたいし改めて厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

“合掌”

灌仏会

四月八日（金）十時から

法要とご詠歌

## 温故知新

故きを温ね新きを知る

庶務 伊藤忍

この慈眼寺整備だより第二号でご住職が旧本堂の取り壊しの際に「新しい物を建設するためには古い物の整理は当然だとは思っておりましたが、いざ始まって見ると身を切られるような思いを致しました。思えば今まで当然の如くに建っていた旧本堂は、今から百五十年前の先祖たちの血と汗の結晶だったのです。これを作るために先人たちはどんな苦勞をしたのでしょうか。自分たちの食物さえ節約した人がいたかも知れませんが、又重くて太い材木を人間の力だけで組み上げた大工さんたちの苦勞も今の時代では想像できないものがあるでしょう。さらには材木調達の件で、官の咎を背負われた宇平翁の逸話にも心が痛みます。」と述懐されました。

今ここに新堂完成を祝い喜ぶときあえて百五十年前の建設の時代に思いを馳せたのは、ひたすら先祖や先人に対して感謝の気持ちを伝えたいからです。

## 和尚敬白

住職 春日井浩道

昨年は、天候の不順に加え、各地で大津波や、大地震があり大変な犠牲者が出ました。またもう三月だというのに真冬の気候が続いております。異常という言葉が日常的になり、様々なことがたくさん起こるのが当たり前というような気風が常識になりつつあるようです。

またイスラムや民族問題を回る果てしない殺し合いが後を絶ちません。自分の権力体制を護るためには全ての人間を犠牲にしかねない独裁者がごろごろしています。なんとなくうさ晴らしに無関係な人たちに切りつける人間もふえているようです。コンピュータで世界が一つにつながり、人工衛星がいくつも地球を回っ

ているような時代になっても、これでは果たして進歩したといえるのでしょうか。確かに科学技術は進歩したのでしようが、感情によって動かされる人間の本质は少しも変わっていないような気がいたします。

皆様、お変わりありませんでしょうか。平成十二年の暮れに発足しました整備事業も、それこそアレヨアレヨという間に完成するころとができました。昨年末には落慶・晋山式も無事終了いたしました。新命和尚とはえらそうな役回りで面映なく気恥ずかしい経験でした。それでも全て順調に進んだのは、何百年に一度の人のつながりが得られたためだろうと思っております。良い人間関係を作ることが、全ての物事をよい方向に動かす。仏の教えは案外そんな

なものではないかと思うようになってきました。委員長はじめご支援いただいた有縁無縁の方々から感謝いたします。ありがとうございました。

## 編集後記

この度の整備事業は、慈眼寺にとって何百年に一度の大事業だから関係の皆さんには出来る限りお知らせすることを心掛けよう、ということでした。「だより」を発行することになりました。思えば第一号の編集後記で、この「だより」が檀家の皆さんと整備事業の進捗状況お知らせの懸橋になることを誓いました。

果たして約束通りになったかは判りませんが、絶えず初心忘れるべからずを唱えながら、発行してま

いりました。その間皆さんにはよく読んでいただきご理解いただき有難うございました。これをもつて整備事業とともに歩んだこの「だより」も発行を終了いたしますが、それぞれご協力をいただきました檀家の皆さん方には心から感謝を申し上げます。重ねて有り難うございました。（編集子）

「慈眼寺整備だより」第10号  
発行日 平成17年3月10日  
発行人 春日井市下市場町5  
慈眼寺整備委員会  
委員長 大野悟  
編集 庶務 伊藤忍  
連絡先 電話 0568 81 6801